

「三徳の家庭菜園」 ③⑥

【セルリー】～多汁で爽やかな歯ごたえの芳香野菜～

セルリーは、地中海沿岸原産のセリ科1～2年の野菜で、生育適温は15～20℃と冷涼な気候を好みます。6月に播種したもので収穫が11～12月と、葉物野菜の中では非常に栽培期間が長いのが特徴で、有機物をたくさん含み適度に湿り気がある肥沃な土壌でないと良いものが採れません。育苗がやや難しく、その期間が長いので、家庭菜園用ならば必要な苗数だけ購入した方が得です。購入した苗は12cm鉢で本葉が7～9枚になるまで育て、菜園には9月上旬頃に株間35～40cmの間隔で植え付けます。

良い物を探るには非常に多くの肥料を必要とし、10㎡当たりに基肥として堆肥40kg、石灰2kgと肥料を窒素成分で300g程度施します。定植後も、約3週間間隔で窒素成分で200g程度の肥料を、2～3回施します。生育には肥料とともに水も非常に欲しがります。根が細く、しかも浅く横に張るために土壌の乾燥には非常に弱く、乾燥させると心腐れや「ス入り」が出て、品質を著しく落とします。定植後で本葉が15枚以上になるとわき芽が出て来るので、黄化した下葉や病葉とわき芽はかき取って新葉の生育を促します。植え付け後80～90日経過し、草丈が50～60cmで葉が開き気味となり、葉色がやや薄くなった頃が収穫時期で、外側から1枚ずつ剥がすか、株ごと収穫します。

セルリーは、ビタミンC、B群やミネラル類の他に食物繊維にも富み、食べるとジューシーで爽やかな歯ごたえがあり、サラダや肉料理に大人気です。また、その独特の芳香には、ストレス緩和や気持ちを穏やかにする効果があると言われています。

福岡県農業大学校 嘱託職員 林 三徳



●畑に植え付け時期に達した苗(本葉7～9枚)



●株間35～40cmで植え付ける(条間は55cm)。8月中の植え付けならば、白黒ダブルマルチをしても良い。

八女茶で健康 第17回

国際会議で八女伝統本玉露PR

最近、人と動物との間で病気や健康などについてニュースになっています。世界獣医師会と世界医師会ではこれを「One Health」（一つの健康）と呼んでいます。これに関連して、11月10日（木）～11日（金）に「第2回 世界獣医師会－世界医師会「One Health」に関する国際会議」が福岡県北九州市のリーガロイヤルホテル小倉で開催され、世界40か国から約500人の方々が出席されました。

日本では、藏内勇夫福岡県茶生産組合連合会会長が日本獣医師会会長で、みやま市高田町の横倉義武ヨクラ病院理事長が日本医師会会長です。近所でもあり、連携がとて緊密なことから、世界をリードする素晴らしい取り組みが福岡県で実現しました。

私は、この国際会議で、八女伝統本玉露のPRをしました。

八女伝統本玉露は、「だしパック（11×10.5cm）」一袋に玉露20gを入れ（詰めすぎると茶葉が水を吸ったとき膨らみが良くない）冷水400ccと硬い氷をやかんに入れて4時間、冷蔵庫で抽出して作った冷茶約20Lを使用しました。



八女伝統本玉露PRの様子

各国の方々からは満面の笑みで「Delicious!」と言っていました。お土産にほしいという方には50gで3,000円（税別）の八女伝統本玉露を販売し、35袋売れました。多い人は一人で4袋買われました。

福岡県茶生産組合連合会事務局長 仁田原 寿一

特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」

会期 平成29年1月1日～3月5日
会場 九州国立博物館 3階特別展示室

海の正倉院とも称される沖ノ島は、『古事記』・『日本書紀』に「沖津宮」と記された由緒ある社であり、8万点にも及ぶ神宝が「国宝」に指定され守られています。

本展では、沖ノ島で発掘された出土品と、『古事記』・『日本書紀』に記された神話を交差させながら、大和朝廷を基盤に成立する『神宿る島』宗像・沖ノ島の源に迫ります。

観覧料
一般1,500円(1,300円)、高大生1,000円(800円)、小中生600円(400円) ( )は前売り



野鳥ウォッチング

②③

サンショウクイ

サンショウクイは、夏鳥として飛来する20cm程の水鳥です。広葉樹林の高木のある所を好み「ヒリリン・ヒリリン」と鳴きながら飛び回ります。

矢部村 栗原 浩暢



12月の道の駅たちばな

松竹梅 アレンジフラワー教室
日付 12月18日(日)
時間 10:30~
費用 1500円
場所 道の駅活性化センター
締切 12月11日迄
※はさみも持参してください

毎月本紙に「健康よもやま話」を執筆頂いている松浦緑郎先生(姫野病院勤務)



が平成27年・28年度掲載分24話にコラムを加筆された第一話が完成しました。私たちに最大の関心事である、心と体の健康をどう守るかを一話ずつわかりやすく述べておられます。転ばぬ先の強い味方として手元に置きたい一冊です。先生のご好意により10名の方へプレゼントします。

読者プレゼント

ご希望の方は氏名・住所・TEL明記の上(株)東兄弟へハガキで応募下さい。12月10日締め切り。応募多数の場合は抽選によります。本の発送をもって発表とします。

黄櫨の会 公開講座

聴講無料
どなたもお気軽にご来場下さい

テーマ 八女方言かるた
講師 中村 万里 先生 (筑紫女学園大学教授)
日時 12月24日(土) 13:30~
場所 八女市社会福祉会館

クラッシー文芸

立花俳句会

満ちくれば媚びる気はなく月拜む 吉泉守峰
老の手は届かぬ土手の野紺菊 中尾カヲル
遠き人を紫苑に寄せる今朝の供花

打点王勝利の秋や目が潤む 西島志乃芙
秋半ば蚊取り線香薫き続く 平田清香
秋の月主なき家の草照らす 末継ミヨ子
またたく間右も左も刈田かな 中村テルヨ
深町和子

八女紫苑句会

崩落の古城巡れば秋時雨 中川原篤子
夕風やゆるるコスモス休田に 松延みさと
ふくいくと主徳ぶか金木屋 松崎伸子
公卿唄の社にひびく秋まつり 牛島景子
影ふみて月の兎に想ひ馳せ 堤 多鶴子

立花短歌会

年老いた軽トラ労りゆつくりと目指す竹林木 橋本泰州
洩れ日の道 井上 精
咲きほこる田んぼの畔の曼珠沙華彼岸を告げ 松尾ミサキ
る季節の時計 鶴隆治郎
ようやくに肌を感じる秋風が吹いてくるなり 中島睦美
薄揺らして 桜木敦子
わが町の老舗菓子屋の隆勝堂土産に求める蹴 中島睦美
洞饅頭 中島睦美
健やかに生きていこうと決意する傘寿過ぎた 中島睦美
る命持つわれ 中島睦美
かけつこをすれば孫に追いつけず老化現象す 中島睦美
すみいるらし 中島睦美

青空の下に子供らの声のする運動会はやつぱ 田中たつじ
り秋だ 田中たつじ
野母崎は水仙の香と磯の香とあわき思い出た 野中裕政
だようところ 野中裕政

睦会

秋祭式の祝詞に高揚す 松尾貞義
学童の落穂拾ひし戦時中 大坪栄子
文字小さく秋の絵葉書理め書く 城戸和子
刈田中キヤッチボールの父かな 穴見ミキエ

秋の暮長く伸びたる影法師 大田真紗子
夕暮れに投網のごとき稲雀 伊藤幸子
磨り林檎母の頬から笑みこぼれ 松尾美喜